

2013

12月号

あさお市民活動レポート

平成25年度麻生区地域課題対応事業
「あさお市民活動レポート」第2巻 第7号
発行日：平成25年12月1日

発行元：NPO法人あさお市民活動サポートセンター

CONTENTS

Lucky Ride + 洋子	2
岡上オカリナくらぶ	2
サンホイホイ	2
もちたに	3
やまゆりトリオ	3
SSファミリーバンド	3
やまゆりギターの会	4
ヒロ&トシ	4
五月クラブ	4
腹話術の会★きすな	5
健康吟詠の会	5
南亭ハツ太	5
潜入！やまゆり楽芸会 舞台裏	6

がくげいかい

第1回 やまゆり楽芸会 開催！

ふれあう・ひろげる・つくりだす「地域の底力」を。

麻生市民交流館やまゆりでは、2010年から日頃の知識を披露してもらいたいと区民講師公開講座を開催、すでに60名の方々が区民講師としてデビュー。今年度も16名の方々が興味ある講座を企画し、来年3月から講座が始まる。

そこで、区民講師と同様に、地域の楽芸に秀でた方々に日頃の技を披露してもらいたいと「やまゆり楽芸会」を11月16日に開催した。新しい試みだったが、音楽の街を標榜する麻生区だけに、予想以上の20団体・個人の応募があり、年齢層も披露する内容も幅広く楽しさを予感させるものだった。

本文で出演者を紹介しているが、このイベントは、お互いが連携する

ことにより、演目を増やし、施設への慰問・町内会行事などへの参加など「地域でのお役立ち」を期待して企画したので、楽芸会終了後に、参加者の出会いの場として「交流会」を実施し、親睦を深めてもらった。

紙面の都合で、以前取材した「健康とじょうすくい踊りの会」「ホネホネロック」「朗読の会りんどう」のみなさんは省略しているが、参加者への問い合わせなどは同館の市民活動相談窓口（人財バンク）で対応してくれる。

NPO法人あさお市民活動サポートセンター
理事長 植木昌昭



会場に来られなかった出演者の関係者のために「ユーストリーム」を使ってライブ中継に挑戦。今後、体の不自由な人々、遠方の知人なども一緒に楽しむことができる可能性がうまれた。



鍋沢 一男さん
10穴複音ハーモニカで多くのレパトリーから、日本の民謡を演奏。



佐保田 光弘さん
喜寿77歳。現在、特訓中のハーモニカとドラムの同時演奏を披露。



白熊 重雄さん
「この大空へ翼を広げ、飛んで行きたいよ」このフレーズに魅了され選曲。



島本 美佐子さん
12月で定年退職になるため、人生の節目の思い出に残したいという気持ちで参加。



横井 彩子さん
人前で演奏する機会を少しでも多く欲しくて参加。



やまゆりイベント本番レポート

第1回やまゆり楽芸会

出演者ってどんな人？ 披露された演目は？
お客さんの反応は？ 当日の様子を区民記者
が総力を挙げて取材・撮影しました。

終わった後はやったなって感じ

Lucky Ride + 洋子



2人のギターは「悲しき街角」



洋子さんの声は優しい♪
「ラヴァアース・コンチェルト」
「愛さずにはいられない」

畑山さんと佐保田さんは仕事仲間。
知り合いのパーティーで洋子さんの
歌を聞いて是非コラボレーションを
したいと今回誘った。2人より3人。
化学反応で音楽に厚みがでたと畑山
さん。これからも聞いて育った時代の
歌を歌っていきたい。

取材・文・写真 丸山とし子

岡上オカリナくらぶ

柔らかくて温かな音色が チャームポイント

「澄んだ優しい音を出せるのは、リラックス
しているとき。このグループの音色はいつも、
柔らかくて温かい」と絶賛の小棚木先生。

“結成一周年の力試し”にと、はじめて挑ん
だ三重奏。「練習の成果がバッチリ！三つの
パートの息がピッタリ！」と、代表の小林さ
んは、手ごたえを感じて大満足。

取材・文・写真 落合ふみこ



小棚木先生「笑い
を誘う言葉を選
び、和やかな雰囲気
づくりを心掛けて
います」
(写真中央)

小林さん（写真手前）
の笑顔と小宮さんの
ムードメイクで、みん
なリラックス。優しい
音が生まれます



「埴生の宿」「聖者の行進」
「夕焼け小焼け」を合奏

ウクレレをポロロン ハワイの空気 サンホイホイ



ウクレレとギターのサウンドが魅力的
向かって写真左から
荒池さん、島本さん、澤田さん、小野さん

「さんさん会」の中でウクレレを楽
しみたいと名付けた「サンホイホイ」。
「ウクレレを手にとって間もないメ
ンバー」というが、演奏も歌もばっ
ちり。会場はハワイの雰囲気、ホ
イホイ（ハワイ語：楽しい）の顔。ウ
クレレパートが急遽出演できず、ギ
ターが代役のハプニングも。そのギ
ターの響きが味わいをそえた。

取材・文・写真 石崎純也



♪「知床旅情」「月の夜は」「アロハオ
エ」♪
“演奏も歌も楽しめたよ！ 最高！”と
一同満足そう（演奏後の控室で）

若い2人の歌は軽快で新鮮 もちたに



SSファミリーバンド
のコーラスに飛び入
りで参加



昭和音楽大学ミュージカルコース
3年の大谷光世君と望月美里さん。
授業ではいつもミュージカルの歌
を歌っている。今回は自分たちで楽
器を使い、どうやって歌うか話し
合って作ることが出来て楽しかった
そうだ。「ぼくときみ」「また繰り返
す」「パフ」を歌った。

取材・文・写真 丸山とし子



ユニット名「もちたに」は望月さん、大谷さん、
2人の名字から一文字ずつって命名した



カラオケ練習3回
のみで出演

メインボーカルはやまゆりの
歌姫、夏堀さん

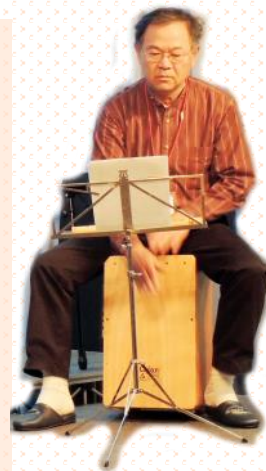
ギターを担当する本間さん
もその美声を披露



やまゆりトリオ 即席でも客席を魅了 サスガ！

三人は、やまゆり事業企画のメンバー。
いつもは“やまゆり”のイベント担当者
として裏から舞台を盛り上げているが、
人前で演奏する緊張感を味わってみたい
と応募した。舞台慣れしたベテラン揃い、
客席との当意即妙なやり取りで場を和ら
げ、演奏に入る。演目は「ヘイ・ポーラ」
「恋に落ちて Fall in Love」。甘いボー
カルと楽器演奏でたちまち客席を魅了す
る。シニア世代は生活にちょっとした挑
戦の機会を組込むことが大事だ。多くの
挑戦者の出現を期待したい。

取材・文・写真 吉田清次



ペルー発祥の箱型打楽器
カホーンでリズムをきざ
む熊本さん

音楽大好き一家のほのぼのステージ

ギター小僧のお父さん、お祭り好きでピア
ノ演奏もこなすお母さん、歌うことが大好き
な息子（高2）さんのトリオバンド。息子さ
んは、今回の最年少出演者ながら昭和歌謡
三曲「上を向いて歩こう」「君といつまでも」
「バンバンバン」を迫力ある歌声で、時には
ハジケ、口笛やハーモニカ演奏も加え、一気
に歌いきった。会場を沸かせ楽しく大きくも
りあげた。音楽のある家庭の温かさ素晴らし
さを強く印象づける演奏であった。

取材・文・写真 吉田清次

SSファミリーバンド



佐々木ファミリーなので、
頭文字のSを複数形にしてSS

←「もちたに」さんも
コーラス隊で初共演



やまゆいギターの会 A^bmaj7

響き合う合奏の魅力、いいね！

講師の中林氏

カッコい〜ね、
この中高年は、伸
びしろが大きいよ



いきの合った8人衆の熱演（前列中央が80歳を超えた鈴木さん）

鈴木さんの青春は戦時中で好きな音楽はご法度、戦後も仕事一筋の毎日だった。1年半ほど前、やまゆい区民講師公開講座（ギター）のチラシを目にし、突然、音楽への思いがはじめて受講。その後、講師を中心に結成されたこの会に参加した。定年を機に飛び込んだ島本さんなど、他の仲間も事情はほぼ同じ。わが世の春を謳歌するギターが奏でたのは「風」と「青春時代」。聴く人の胸にほのぼのと青春が甦る、そんな合奏だった。

取材・文・写真 飯田保幸



♪「影を慕いて」「アメージング・グレイス」「カチューシャの唄」♪
“緊張で手に力が入って、きれいなトレモロができなくて…”と。

失敗しても笑って楽しみたい ヒロ&トシ

お笑いコンビ「タカアンドトシ」にちなんで名前を付けた。失敗しても笑いがとれればよい、人生を楽しもうと。マンドリンのこころにしみる美しいトレモロが観客を魅了し、アンコールの声と拍手。演奏歴20年のベテランの本領発揮。介護福祉施設などで慰問演奏もやっている。

取材・文・写真 石崎純也



ベテランも、本番前のチューニングと練習を欠かさない
「ヒロ」こと、谷田貝ヒロミさん（写真左）
「トシ」こと、としだか子さん（写真右）

クラシックギターで元気はつらつ

平均年齢72歳、70の手習いの人もいる。今日は週1回の練習成果と10年目を迎えた会の発表会。開幕5分前、急きょ玄関先で音ならしをはじめ、手洗いへ急ぐ人と落着かない。演奏は「四季の唄」「里の秋」など4曲、曲が進むにつれ奏者9人の息もピッタリ、詩の情景がギターの調べで浮彫に、リズムに誘われて身体をゆすり、馴染の歌詞を口ずさむ人も。会場が一つになり、楽しい楽芸会であった。

取材・文 竹市八郎／写真 中島久幸

五月クラブ



聴くは楽しい、
されど弾くはさらに楽しい



腹話術の会★きずな

「キヤリーパミューバミュー、や
ジェジェエ」も飛び出した



会場とのかけひきでおいに盛り上がった

自称88歳のお梅さんが、自分の歳をさておいての、とぼけた話術で高齢者をからかう。つぎに、年齢不詳のシローちゃんが、「自己と事故」や「あいづちとかなづち」を取り違える話術で会場をわかせた。

腹話術はいつ見ても不思議。

取材・文・写真 中島久幸



川柳「デザートは昔ケーキで今クスリ」は傑作

力強い詩吟の響きに 拍手喝采

40吟ものレパートリーの中から「不識庵機山を撃つ」図に題す「白虎隊」「名槍日本号」を披露。「力強く響きわたる声」と「凛とした立ち姿」に「カッコ・イ・イ！」という称賛の声と拍手。月2回の鍛錬の賜物。しかし、「最初の“礼”が揃わなかった」と反省するメンバーも。極めて真面目なグループの「カ・ワ・イ・イ〜」一面を発見した！

取材・文・写真 落合ふみこ



熱演のメンバー（写真左より）平山さん・小島さん・五十嵐さん・吉岡さん・松田さん・宮本さん



ご満悦の面々（交流会にて）

松田さん「たくさんの人に聴いてもらえて感動でした」
吉岡さん「ファミリーな雰囲気で楽しい楽芸会でした」
五十嵐さん「参りました、緊張で声がかすれて・・・」



本番直前、真剣勝負モードで打合せをする 吉岡さんと宮本さん

ナンテヤッタ 南亭ハツ太



「ひょっとこソバ」の由来のナゾカケに聞き入った

「南亭ハツ太」芸名のきっかけは、下戸なのに、酒に酔う語りがうまいのを目にした友人が「なんてえ奴だ」とささやいたこと



しろうとばなれた芸にウツトリ

しゃべりがたまらなくおかしい、座っているだけで面白い。酒に酔う語りが得意だが、本当は下戸。今日のはなしの「熱いソバを食べる顔がひょっとこ」という落ちはさすが。

後半で演じた踊りも所作がこなれていて、玄人はだした。

取材・文・写真 中島久幸

「やっこさん」（昔の寄席では落語のあとで踊ること）足腰が丈夫になり、健康にいいと思最近はじめました。皆さん、いかがですか？



潜入！ やまゆり楽芸会 舞台裏

スタートから打ち上げまで★「楽芸会」舞台裏をレポート

企画が持ちあがったのは2013年2月。提案者は今井さん。会議で採択されて、今井さんを中心に牧田さん、篠原さん、中込さんが、舞台監督、音響、司会・進行役、総合調整などを分担することになった。インターネット中継は高倉さんが担当。はじめてのことだから、すべてが手探りだ。

5月に出演者を募集、6月には説明会を開いて、舞台設定など出演者の要望を聞き取り、持ち時間の調整を行った。



リハーサルで音響のチェック・確認をする中込さん（手前）と篠原さん（奥）

9月と10月には出演者のリハーサルを行い、立ち位置、マイクの種類と位置、照明など、入念に確認した。「やまゆり」には組立式舞台や音響機器、照明機器など機材は充実しているが、多種多様な出し物に合わせ、舞台の広さや高さ、マイクの位置などを短時間で転換していく必要があることがわかった。



公演当日、やまゆりスタッフ18人が8時から準備にかかり、10時の開場時にはサロンがすっかり手作り小劇場に変身していた。



本番でタイムキーパーを担当した牧田さん

出演者の控室だった二階の会議室は、終演後は交流会会場に早変わり。本間さんを中心に女性スタッフが大活躍。参加者が80人ともなると、会場のセッティング、お酒やおつまみの選定、家庭料理の持参、買い出しなども大変な仕事だった。

残念なのは、企画・運営の重鎮、今井さんが、直前に体調を崩され、当日、顔を拝見できなかったこと。一日も早く本復され、いつもの笑顔で復帰されんことを願っている。

関係者のみなさん、大変お疲れさまでした。

写真・文 区民記者 飯田保幸



リハーサルで出演者と入念な打ち合わせをする今井さん（右）



インターネット中継の打ち合わせをする高倉さん（中央）



大急ぎで舞台設定を変えるスタッフと心配そうに見守る司会の篠原さん（右）



これ、何？・・・どうなってるの？ と、音響係

出演者と運営スタッフが参加した交流会は最後まで笑いの絶えない会となった

あさお区民記者

「区民による 区民のための情報発信」を目的に活動。過去の記事や取材後記はホームページをご覧ください。

<http://www.asao-ku.net>



麻生市民交流館やまゆり
〒215-0021 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-5
Tel.044-951-6321 Fax.044-951-6467
URL <http://web-asao.jp/yamayuri/>
Access 小田急線「新百合ヶ丘駅」南口から徒歩4分

